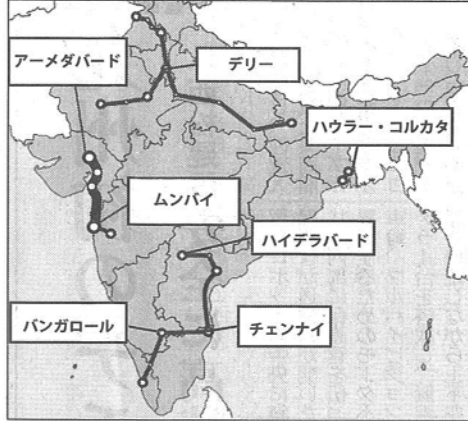


【JICA 278億円で日本コンサルJV インド高速鉄道詳細設計】

JICA
278億円で日本コンサルJV
インド高速鉄道詳細設計

インドの高速鉄道計画



国際協力機構(JICA)の導入が決定。今年11月の日印首脳共同声明では18年設事業詳細設計調査(有償勘定技術支援)業務の委託先を日本コンサルタンツ・日本工営・オリエンタルコンサルタンツグループに決め、9日付で契約した。契約金額は277億920万2160円(税込)。(総延長505km)の高速鉄道建設事業で、設計案の作成や入札など支援する。同事業は昨年12月の日印首脳共同声明で新幹線方式

の導入が決定。今年11月の日印首脳共同声明では18年の着工、23年の開業を目指すことと合意した。日本コンサルタンツの親会社のJR東日本の富田哲郎社長は6日の記者会見で、「官民一体で他の建設会社やメーカーなど、オールジャパンで取り組まなければならないプロジェクト。鉄道会社としてオールドジャパンで完成できるように力を尽くしたい」と述べた。これまでに行われた日印共同の調査結果によると、ムンバイ・アーメダバード

間を営業最高時速320kmで走り、両都市間を2時間7分で結ぶ計画だ。駅は12カ所設置。総事業費は約1兆8000億円を見込む。10月7日の事業報告(ブログレスリポート)ではインド側が全線高架橋として建設することの必要性を説明。日本側はインド側の見解に留意する意向を示した。事業を通じた技術移転の取り組みの一環で、高速鉄道研修所の設立やインド関係職員の研修プログラムの策定に向けた準備作業が、JICAによる現行調査の中で開始されることも確認した。研修所は20年までの開校を予定。研修プログラムには車両、土木、電力供給、信号・通信など各分野の維持管理・運用などが含まれる見通しだ。日本コンサルタンツが行う詳細設計調査の履行期間は20年まで。業務内容は、▽設計準備作業(サイト状況確認、運賃設定と需要予測レビュー、一般構造配置図の作成、運行・運転計画の策定、配線計画の策定、設計諸元の策定、建設・維持管理基準の策定、トンネル・構造物・橋梁桁(特殊

橋梁、長大橋梁)の各形式の選定、工事契約パッケージ・形態の決定、標準設計・詳細設計範囲の確定)▽設計作業(土木構造物の標準・詳細設計の作成、設計照査)▽事業計画(施工計画、施工スケジュール)の策定▽入札図書案(事前資格審査書類、契約条件書、仕様書、数量計算書)の作成▽入札支援▽その他業務(環境管理・モニタリング計画の改定支援、用地取得・住民移転実施ガイドラインと移転後モニタリング計画の作成、建設作業員保護<HIV予防含む>)の計画骨子作成)など。